

くつきの森 ニュースレター

第54号 2025年7月10日発行
NPO法人麻生里山センター
〒520-1451 高島市朽木麻生443
Tel. 0740-38-8099
Fax 0740-38-8012
E-mail: asosatoyama@zb.ztv.ne.jp

TOPICS

報告

30by30 モニタリング 2024

～森を食べ続けるシカ～

「自然共生サイト」（環境省）に認定された太陽生命との協定林で昨年度、1回目のモニタリング調査をおこないました。対象は「森林」「野鳥」「ビオトープ」「アカマツ実生」の4つ。シカの食害が続いていることが分かりました。

○若い木が育たない／森林調査

野間先生たちと実施しました。

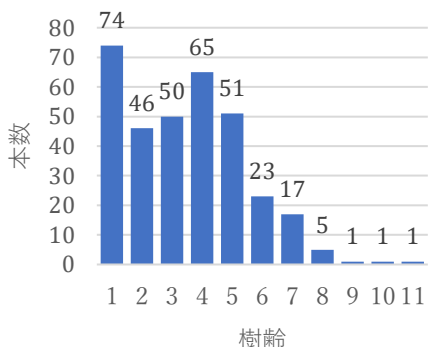
No. 1～No. 5 の5か所（各100㎡）で、木の種類と直径、地表の様子、シカの食害の様子などを記録しました。

No. 1～No. 3 は2012年にも調べた場所。12年たって林は、全体としては確かに大きくなっていましたが、シカの食害で若い木が育っていません。また、樹病によってマツやクリが枯れ、減っていました。



↑アカマツの調査区画

アカマツ実生の消長調査
樹齢別の本数



○整備地に生えた334本のゆくえ／アカマツ実生の消長調査

長澤由香里と加藤みゆきが担当しました。

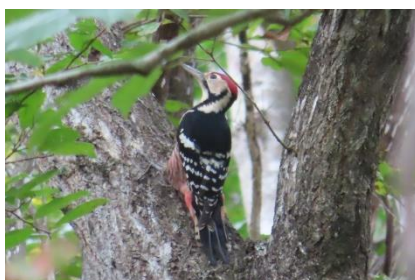
調査地は、これまで表土掻きなどアカマツ再生のための保全活動をしてきた場所の一角です。広さは4m×6m。近くの親マツのタネが落ちて育った実生（稚樹）の高さ、太さ、年齢などを調べました。

今回の調査では334本の稚樹を確認しました。年齢別の本数をグラフにしてみると、5年目まではそこそこ生き残り、6年目以降は急速に消えていくという様子が見てとれました。9年目以降はたった1本。これらが生き残るかどうかがアカマツ林再生の鍵になりそうです。

○ウグイスがいない／野鳥調査

石脇和が担当しました。

駐車場を起点に約1キロ、ぐるりと1周するコースを歩いて確認出来た野鳥を記録しました。「姿を見た」「飛んでいた」「さえずりを聞いた」「地鳴きを聞いた」など、ちょっと不確かな種類もありましたが、27種の野鳥を確認することが出来ました。くつきの森全体の確認数は80種類近くなので、その3分の1に当たります。月1回、しかも日中の調査だったので出会えなかった鳥もいたことでしょう。それでもサシバ、キビタキ、



↑調査中に出会ったオオアカゲラ（10/31）

サンショウクイなど里山らしい野鳥が暮らしていることが確認出来ました。

気になるのはウグイスの声が聞けなかったこと。シカの食害で林が変化しているからでしょうか。

○モリアオガエルがやって来た／ビオトープ調査

上西先生が水生生物を中心に実施。オニヤンマのヤゴ、アメンボの仲間、カワゲラ類、トビケラ類、ゲンゴロウ類など16種類が確認されました。

4月の1回だけの調査なので、記録もれは多そうです。先日（6月25日）立ち寄ったら、リストにはないモリアオガエルの卵塊が11個ありましたし、トノサマガエルも飛び跳ねていました。調査の仕方を工夫する必要があるようです。

○里山の「小さな自然再生」

森林植物をシカが食べ、低木類が思うように育たない状態が続いています。シカの食害を防ぐには防護柵が有効ですが、森全体を囲うわけにはいきません。必要に応じて小さい面積を囲うのが現実的です。

たとえば、朽木東小学校の「どんぐりプロジェクト」植樹地（クヌギ）。ここを2024年秋、強固な防護柵で囲いました。この囲い地では、クヌギだけでなく自然に生えてくる低木や下草類も守ることが出来ます。年1回程度の草刈り管理をすれば、かつての「ほとら山（採草地）」類の植生が復元出来るかもしれません。オミナエシ、アキノキリンソウ、オカトラノオ、ササユリなど、昔ふつうに見られた花も復活してほしい。囲い地が、里山の「小さな自然再生」に役立つことを期待しています。（え）

イベント報告

2025年4月～6月

小さな世界

4/26(土)

森の自然講座／春の森・苔

今年度初めのイベントは海老澤博士の講座から！リクエストの多かった「苔」もテーマに加え、ルーペも使いながら春の森歩き。広い森のなかにある小さなもうひとつの世界にみなさん釘付け。それぞれ気に入った苔でつくった「モスカップ」がお土産です。「苔リウム作りました！」と後からお便りも頂きました。(い)

素敵な苔リウムー
(さ)さんより



↓お土産のモスカップ



声も姿も！

5/11(日)

森の自然講座／夏鳥

今年こそはせめて声だけでも！昨年より開始時間を30分早め、いざ森へ。折り返し地点まではサンショウクイやキビタキ、オオルリなど例年通り。今年も会えないか〜と、やまね館へ戻り始めたその時！「ヴィッ！ホイホイホイ！」と元気なひと鳴き。この日ちょうど森に到着したようで、姿もみんなで観察出来ました。森へようこそ！(い)



↑植田先生 双眼鏡の使い方を説明中

久しぶり

5/24(土)

ユリノキまつり

2019年以来5年ぶりの開催でした。悪天候の予報が出ていたため、屋外にするか、屋内にするかスタッフ間で検討に検討を重ね、午前中は屋外メインで、午後からはやまね館でという形にしたのですが、当日は朝から無常の雨。それでも、たくさんの方にお越しただいて、スタッフ一同驚くばかりでした。

雨の中お越しただいた来訪者・出店者の皆さんに、事故やトラブルのない運営にご協力いただいた関係者の皆さんに、心から御礼を申し上げます。次回こそ、晴れ渡った空の下で、みんなで古楽器の調べとメイポールダンスが楽しめますように！(き)

↓メイポールダンス(やまね館ホールにて)



シュートコース完成

5/31(土)・6/28(土)

未来の森づくり

森の資源を利用することで健全な森の再生をめざす「未来の森づくり」。今年度から新たな3年の取り組みがスタートしました。対象の森は、田中だいらと呼ばれる高台の広葉樹の森です。先日の活動では、高台からの搬出路としてのり面を転がして下すためのシュートコースの伐採を行い、無事玉切り材が運び落ちることを確認しました。(わ)



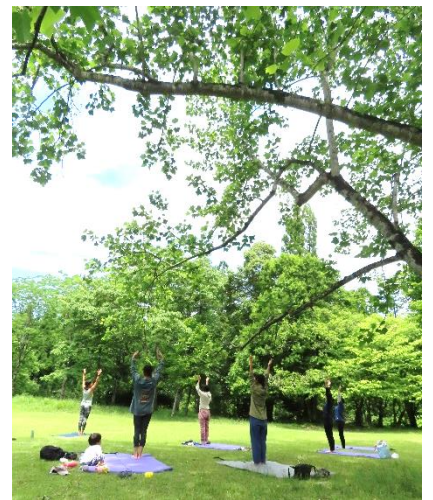
↑大成功！丸太転がし

体と心を整える

6/7(土)

ヨガティス

高島市でウェルネススタジオ「梵我一如」を主宰する とみいさん を講師に迎え、体と心を整えるヨガティスをおこないました。ヨガティスとはヨガの柔軟性とピラティスの引き締める動きを掛け合わせたものです。身心の軸を整えて「心地よく呼吸ができること」を目指します。



ユリノキの爽やかな木陰で約2時間。参加してみると、なんとなく不調だった体と心が引き合うようにすっきり。皆さんそれぞれに変化を感じておられました。ヨガティスのあとは施設のピザ窯で焼いた特製ピザを囲んで、いただきます！「ヨガとはまた違ってはまりそう」「緑のなかで気持ち良かった」「お腹も満たされた」と会話が弾みました。

安心して心地よく自然が楽しめるのも森林公園の魅力ですね。くつきの森とはクアオルトやセルフケアのイベントでご縁のある、とみいさん。冬にも企画を予定しています。(ゆ)



↑2歳のお子さんも一緒にポーズ！

企業のみなさんと

伊藤忠商事(株)「新入社員研修」

林を整備し樹木葬

4/16(水)

伊藤忠商事の新入社員16名がロッジ入口部分の林で、枯れたマツ、雪で折れた雑木、シカが食べないため繁茂したアセビの木などを切って運び出す作業に汗を流してくれました。

伊藤忠と滋賀県は「社会貢献連携協定」を結んでいて、県内での新入社員研修はその一環。今年は新人129名が24チームに分かれ、高島市内の8カ所で「第一次産業」作業を体験。地域の課題などを聞き取り、解決アイデアを研修最終日に知事にプレゼンするというもの。くつきの森に参加したWチームは、「関係人口づくり」をテーマに「樹木葬」を提案。最優秀賞は逃したが、ベスト4に選ばれたとのことでした。(え)



太陽生命保険(株)

恵み豊かな里山林づくり

5/10(土)

くつきの森の南西部に広がる「太陽生命の森林」で毎年行っていたいでいる森林整備活動です。今年は200名を越える社員とご家族の方にお越しいただき、遊歩道の整備や草刈りなどさまざまな作業を手際よく実施しました。太陽生命様の新しい社長さん、そして高島市の新しい市長さんには、当センターの理事長から長年のご支援に



対する手づくりの感謝状を贈呈し、マメザクラ(フジザクラ)の記念植樹を行っていただきました。皆さまありがとうございました。これからも末永くよろしく願います。(き)

大和ハウス工業(株)

真夏のような暑さの日、入社1～3年目の若手を中心とした18名の社員さんがお越しくださいました。

午前中は植栽したヤマザクラ1本1本に獣害ネットを設置。「針金の巻き方を教わり、ためになった」そうです。お昼は「ピザを食べてみたい」というリクエストに応え、石窯ピザと地元の米のかまど炊き塩むすび。おいしく食べてもらえたかな。午後からはやまのこ学習のコースを散策。イモリやモリアオガエル、卵塊に驚きの声。「久々に自然と戯れました」と子どもの頃を

山桜をまもる 6/19(木)



懐かしむ感想も。いやいやみなさんまだまだ若いので、これからも自然と親しみ、地元民の暮らしの知恵と工夫と味を学び体験して欲しいです。またのお越しをお待ちしていま～す。(み)

こどもたちと共に

森の健康診断

4/22(火)・4/23(水)

京都洛星中学校

今年も洛星中の新一年生が森の健康診断にやって来ました。森の健康診断とは、予め区切った範囲に生えている、樹木の種類や直径を測ったり土壌の様子などを調べて「森のカルテ」に書き込み、「森の健康具合」を調査するものです。残念ながらシカの被害により下草や中低木が育ちにくく、アセビやイワヒメワラビ等シカが食べない植物ばかりが生えこ



↑樹木の直径を「樹木尺」で計測中

んでいるなど、決して健康とは言えない状態の森です。京都の中学生にも森の現状を知ってもらい、将来あるべき森の姿を考えるきっかけとなればいいなと思います。あわよくば、森林関係の仕事も彼らの選択肢のひとつとなればバンザイです。(み)

森のお仕事体験

5/27(火)・5/28(水)

慶應義塾横浜初等部 5年生

3クラス約100名が、2日間にわたり高島市内4カ所で第一次産業を体験。くつきの森には各日約20名が里山歩きと森のお仕事体験。すぐに育つ外来種のニワウルシを切って燃料の束に。「もっとやりたい!」とノコギリを握り続ける子どもたち。こんな風になんでも楽しめる力が、今の時代一番大切なのかも。(い)



やまのこ

やまのこ指導員・長澤由香里

やまのこフィールド

自然のなかで身につく学びは積み重ねですが、やまのこ学習では子どもの気づきや変化に立ち合うことがたくさんあります。昔の日常が「貴重な機会」と言われるようになった今の暮らしのなかで、子どもの自然に対する素直さや好奇心には人本来の生きる力を思わせられることもあります。どんどん前を歩く活

発な子もゆっくり自分の歩調で歩む子も、見落としてしまいそうなそれぞれの「自分なり」には愛おしさを感じます。

実施後のアンケートには動物との出会いが多く書かれています、「植物を近くで見るとおもしろい線や形があった」「復活（萌芽更新）出来なかった木でも生きものの役に立つことがわかった」「人がつくった林（人工林）と自然にできた林（自然林）があるなんてすごい」など、この春は草木に関することがとても増えました。近年はフィールドの変化に合わせ、木を

伐ることも雑木林の手入れに位置づけるなど活動を置き換えています。目指す「目的」が生まれると、考えることや見る景色が少し変わってくるように思います。

フィールドの変化とやまのこの活動に結びつきができることで、一歩踏み込んだ自然との関わりが子どもたちに自然への愛着をもたらしてくれると嬉しいです。（ゆ）



●あれこれ

第19回通常総会開催 6/14(土)

梅雨らしい雨の中、10名の会員様にご出席いただき、NPO法人麻生里山センターの第19回通常総会を開催しました。令和6年度の事業報告・会計報告の後、出席者の皆さんによる活発な意見交換が行われました。

総会が終わった後はスタッフ特製



の鹿肉カレーに舌鼓。心もお腹も満たされるひと時になりました。（き）

たかしままるごと百貨店 草木染め体験 6/28(土)

毎年開催されているサマーフェアのワークショップコーナーで高島ちぢみを杉の葉で染める草木染め体験を初出店。この時季ならではの、素敵な濃いピンクに染まりました！（い）



↑輪ゴムで絞った模様がアクセント

麻生地区で米づくり

くつきの森のある麻生地区でも農業の担い手が減少する中、荒れた農地が生まれにくいよう、複数の人が協働で補助金を活用し地域農業を維持する「麻生地区中山間組合」の活動に今年度から麻生里山センターもメンバーに加わり、イベント（4/26）に参加して下さった（さ）さん（京都在住）も飛び入りで5/14に田植え、6/7には草刈り作業。農村と都市をつなぐきっかけにも発展しそうな取り組みです。（い）

→麻生の（さ）さん指導のもと、（さ）さん、田植え機初挑戦！



くつきの森 行事カレンダー 7月後半～10月前半

- 7/26（土） 森の自然講座（土の生きもの）
- 7/27（日） 森の自然講座（川の生きもの）
- 8/23（土） 森の自然講座（昆虫）
- 9/27（土） 未来の森づくり
- 10/11（土） 森の自然講座（きのこ秋）

●森の編集部(あいうえお順)

(い)石脇和 (え)海老澤秀夫 (き)木下彰
(み)加藤みゆき (ゆ)長澤由香里 (わ)若林譲

●編集後記

今回から「森の編集部」それぞれで記事を分担しニュースレターを作り上げる体制に。個性ある文章が並ぶお便りとなりました。不明な点は、各担当者までお尋ね下さい。（い）